

令和6年11月6日

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 5 号

横浜市小学校教育研究会

会長 沼田 留美子

横浜市小学校社会科研究会

会長 高畠 聡

同 学年部長 小池 智宏

【提案日時】

10月 2日 (水)

提案 杉谷 美記 先生 (駒岡小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 上原 健太郎先生 (大口台小)

記録 今成 晴香 先生 (川和東小)

1 提案内容

単元名「武士の政治が始まる ～元寇で見える幕府の力～」

2 提案者より

情報を読みとることが苦手な子や自信をもてない子が多い中で、主体的・対話的、協働的な学びの良さを実感できるように意識して指導を進めた。特にスモールステップを意識して、厳選した資料を順序よく見せていくことで身近な問題から調べたいものを見つけられるようにした。

視点1について

○資料の提示

資料の読み取りが難しい子も直感的に理解できるように平治物語絵巻を用いた。またその後に提示した年表は元寇を除いて、源頼朝の政治に焦点が当たるように作成した。素朴な子どもの疑問や調べたいことが多く出て、学習計画の設定につながった。しかし多くの情報を関連づけて考えをもったり、話合いに生かしたりすることが難しかった。

視点2について

○本気の学習問題の設定

「頼朝が亡くなった後、世の中の様子はどうなったのか」という教師の問いから、蒙古襲来絵巻やモンゴル帝国の範囲、日本と元の戦力の差の資料を順序よく見せたことで、戦いの結果や日本がどのように元軍を退けたのかについて子どもが興味をもてるようにし、本気の学習問題を設定した。

○個の学びを生かした、協働的な学び

ロイロノートで提出された一人ひとりが調べた内容から、距離20kmの石塁に興味をもった子を全体で取り上げ、本気の学習問題について考えを広げた。ダンボールと跳び箱などを用いて、実際の石塁の大きさを実感させることで、歴史との心理的距離を縮め、当時の人々になったつもりで本気の学習問題に迫ることができた。

○抽出児童の振り返りから

学習から分かったことが中心であった振り返りから、当時の人の思いになって考えたり、新たに疑問をもったりする振り返りが見られるようになった。

3 協議会

○実物・資料の提示について

資料の厳選やタイミングによって、本気の学習問題についての子ども意識が強まった。特に、石塁の大きさについて数字だけでなく、同じ高さから見下ろすなど実際にその大きさを体験することを通して、話合いのきっかけが作れたのではないか。

○ファシリテーターとしての役割

御恩と奉公の関係といった既習内容や、大仏や古墳などで学習した内容との関連づけを促す発言があると、深い学びにつなげていくことができるのではないか。

○本時の目標に迫っていたのか

意図的指名をして石塁について考えるタイミングを早めることで、幕府の支配が全国に広まったことについて考える時間を増やすことができたのではないか。長く高い石塁を作るには、全国の武士がいないとできないということを焦点化したり、それに関する子どもの発言を取り上げたりすることで、幕府に支配について考えられたのではないか。

○担当校長先生より

単元を終えた時に、学習指導要領にある「武士により政治が始まったこと」について、子どもがどのように捉えているかが大切である。そのためには、前単元で子どもたちが「天皇を中心とした政治」をどのように捉えたのかについて、教師が把握しておく必要がある。本単元が「元寇の勉強だった」とならないように、本単元でおさえる学習内容を確認しながら、各単元の学習を積み重ねていくことが大切である。

<講師の先生より> 箕輪小学校 副校長 大滝文平先生

多角的な見方をしている子が多い分、先生が話合いの視点を発問や板書で定める支援をすることで子どもたち自身が意見を関連づけやすくなっていく。本気の学習問題に対する子どもの思いは前半で出ていて、後半でも既習内容を思い出しながら発言できている子もいた。それを教師が価値づけしていけるとよい。

歴史は事実と想像を分けて考えるのが難しい中で、教師自身が事実を見極めていくことが必要である。どこまでが事実かを見極めた上で、その事実から子ども達が自分の考えを広げていけるようにしていくとよい。あまり根拠によりすぎると、できる子だけの授業になってしまう。また単元全体を見通してふりかえりの姿がどうあって欲しいのかを見通して、単元計画することが必要である。

文責 今成晴香 (川和東小学校)